

土佐遠し土佐の樗の花戀し

藤田湘子

私が鷹俳句会に入会したのは昭和五十六年、三十歳の時。湘子先生が国鉄を退職した後、各地の指導に出かけていた頃であった。高知でも揚田蒼生さんのお世話で、湘子先生、飯島晴子さんの指導句会が何度か開かれた。

「指さして樗の花ぞ土佐一宮いづく」昭和五十二年、湘子初来高時の作。蒼生さんは昭和五十八年十二月、この世から旅立った。四十七歳であった。亡くなる二日前に晴子さんが来高し、二年後には、湘子先生が墓参して下さった。掲句は昭和五十九年六月の作であるから、土佐の男を偲び、お墓参りに行きたいけれど、土佐は遠い。それにつけても、あの樗の花の恋しいことよ・・と、思いを寄せて下さっていたのだろうか。

1984年 (S59.06.06作) 第七句集 『去来の花』鑑賞・野本京